

令和8年(2026)年度 大町岳陽高等学校 進路指導方針②

進路指導係

I. 進路指導基本方針

深い自己理解と、社会認識を兼ね備え、主体的に進路設計できる自立した高校生の育成

II. 進路指導目標

(1) 多様な進路希望の実現：

生徒の多様な進路希望実現のために、伸びる力を最大限伸ばし、早期から具体的な目標を持たせ、学力の向上を図るとともに、幅広い学力層にきめ細やかな学習支援・進路支援を、組織的に行う。

- ① 進路希望調査を年2回 GoogleForms で行い生徒の進路希望を詳細に把握する。
- ② 担任面談を中心に、進路係を含めた進路の会議の場をふやす。
- ③ 進路希望を具体化するための進路講演会の実施、学年進路便り・進路通信、各種情報誌の配布、進路情報の発信。
- ④ 授業を大切に作る姿勢、部活動・生徒会活動と学習の両立を目指す姿勢が学校生活を充実させ、結果的に進路成就につながることを踏まえ、予習・授業・復習のサイクルを習慣化させ学校生活を充実したものにすることをめざす。
- ⑤ 学習指導係・3学年会と連携し特編授業の方針を検討する。
- ⑥ 思文堂・学習スペースの有効利用により自学自習の場を確保する。
- ⑦ 定期考査、実力考査、外部模試の結果により適切に学力を診断するなかで、進路目標との距離を客観的に意識させ学習計画に反映させる。
- ⑧ 各学年と連携して、土曜補習・平日補習・夏季補習などへの参加を勧める。(R5より希望制)

(2) キャリア教育の充実：

キャリア教育を通して、生徒が自らの能力・適性を発見し、社会的関心を深め、国際的な視野を広げて、主体的な進路決定が出来るようにする。

- ① 3年間のキャリア教育プランを考慮し、計画的に進路計画を実施しながら職業観を育成する。
- ② キャリア教育担当・学年の進路係が連携し進路講話、体験型ガイダンス、適性検査等を効果的に組み立て、進路実現へとつなげていく。
- ③ 「職業研究」を充実させ、勤労意欲・勤労意識の向上を支援する。
- ④ 1日看護体験・福祉の職場体験などへの積極的な参加を呼びかける。

III. 進路指導目標細目

1. 進学指導

(1) 学力向上のための基本姿勢

- ① 1年次から、予習・授業・復習のサイクルを習慣化させる。絶対的な学習時間を確保する。
- ② 高い目標を設定し、安易な妥協を許さず粘り強く学習に取り組むように指導する。
- ③ 外部模試を積極的に活用して、その結果を指導に活かす。
  - 1) 1年生、2年生(10月まで)は全員受験、2年学科は2年次も全員受験、3年生は進路希望に応じて適切な模試を受験させる。
  - 2) 模試の問題を復習させることによって学力の定着を図る。
  - 3) 模試の結果分析を利用して、今後の学習計画を練り直していく。
- ④ 模試、土曜補習については、積極的な参加を呼びかけ、学力向上を目指す。
  - (ア) 模試・土曜補習・夏季補習については以下の場合を除き、原則、受験・受講を優先してほしい
    - ・冠婚葬祭等の家庭の諸事情
    - ・部活動の大会・コンクールなどの公式戦・公的な催し物への参加
    - ・上記大会へ参加のために必要とされる活動の場合
  - \*希望制ではあるが、単なる練習試合等は除く。

- (イ) 事前にわかっている場合は、1週間前までに担当者に必ず連絡をお願いします。模試予定日に実施できなかった場合は、1週間以内に顧問が実施し学年の進路係に提出をお願いします。
- (ウ) 直前になっての変更のないように学年の進路係と連絡を取り合うようにお願いいたします。
- (2) 入試制度の理解、対策および出願指導
- ① 一般選抜
- 1) 大学入学共通テスト：
- 通常授業・特編授業・補習・模擬試験等を活用し、マークシート形式、時間配分などに慣れさせる。また受験後においては、各大学の個別配点(アラカルト方式など)や大学入学共通テスト利用私立大学等を踏まえた、幅広い出願選択ができるように出願時の指導を丁寧に行う。
- 2) 国公立大2次試験・私立大一般入試：
- 国公立大学は記述式、私立大学は記述と選択の併用が多い。統一試験である大学入学共通テストとは異なり大学の個性が反映されており、志望大学に応じて傾向と対策が必要である。大学入学共通テスト対策のみに固執するのではなく、記述力を中心とした個別大学の対策も通常授業・特編授業・補習授業を活用して充実させたい。
- ② 学校推薦型選抜および総合型選抜
- 1) 基本方針
- 本人の志望学校に推薦入試制度がある場合には出願を考えさせるが、安易に推薦に流れないように指導する。次年度以降の参考資料として、試験後には「受験報告書(紙とweb)」を必ず提出する。
- 2) 国公立の学校推薦型選抜公募制、私立大学の公募制・指定校制の選考方法
- 進路指導係と3学年により構成する校内選考会に選考し、職員会にて学校長が決定する。  
\*推薦については、校内の推薦基準(別紙)に則って選考する。指定校推薦の校内選考基準については、後日、確認する
- 3) 総合型選抜入試などの自己推薦
- 出願は基本的に自由であるが、事前に担任と十分に相談するよう指導する。
- 4) 推薦合格者への事後指導
- 推薦入学者は進学後、特に模範的な学生生活を送ることが求められる。したがって合格後においても大学入学共通テストの受験、レポート、各種検定の受験など一定の課題を課す。  
 原則として4年制大学推薦合格者は大学入学共通テストを受験し学力の維持向上に努める。  
 ・専願のみの場合は、合格後の辞退、他校への出願は認めない。  
 ・受験後すみやかに「受験報告書(紙とweb)」を提出し、合否の結果を担任へ報告する。  
 ・高校卒業まで規律ある学校生活を送る。(授業態度・出席状況・頭髪・服装など)
- (3) 面接・小論文・総合問題等への指導・・・学年と進路指導係が連携しながら、計画・立案する
- 各教科における知識を理解・習得することに加え、教科の枠を超えてそれらを統合できる思考力、自らの意見を発信する表現力、他と協同して課題解決できるコミュニケーション力を養成する。
- ① 1、2年次からの読書指導(課題図書・レポート・LHRの活用等)、各種の新聞などの配布。
- ② ガイダンス・講演会などによる、最新の知見、情報の取得。
- ③ 生徒対象の小論文講座や職員対象の小論文指導研究会の実施。
- ④ 分野別の個人指導(人文科学・教育系・社会科学系・自然科学系・保健医療系 等)。
- ⑤ 探究活動による総合力の涵養。
- (4) 高大接続改革対応
- ① 学力の3要素 1) 知識・技能  
 2) 思考力・判断力・表現力  
 3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ② 入学者選抜要項の見直し
- \*〔一般選抜〕(一般入試) 1) 調査書等の積極的活用 2) 共通テスト対策、教科「情報」対策  
 \*〔総合型選抜〕(AO入試) 1) 学力試験の必須化 2) 本人記載資料の積極的活用  
 \*〔学校推薦型選抜〕(推薦入試) 1) 学力試験の必須化 2) 「学力の3要素」に関する記載を必須化
- ③ 多面的・総合的評価への対応
- 「総合型選抜」「学校推薦型選抜」において、活動報告書等の提出が求められている。  
学力試験を課す年内入試の広がりを受け、文科省は書類審査に加え、小論文や面接など複数の評価方法を組み合わせることを条件に、学力試験実施を認めた。

## 2. 就職指導

キャリア教育を充実させるなかで、生徒が自己の能力・適性・興味を考慮し就職先を決定できるための指導・助言を行う。

- (1) 就職すること、社会人になることの意味を考えさせる。
- (2) キャリア教育等で職種に関する基礎知識、最新情報を学ぶ。
- (3) 企業相談会、会社訪問を通して地域の企業の実情など把握する。
- (4) 就職試験、公務員試験のための基礎学力、処理能力、推理能力の向上を図る。

また作文、小論文の書き方の基本を習得する。

- (5) 就職試験における面接指導はきわめて重要であることから、時間をかけた指導を丁寧に行う。
- (6) 履歴書の書き方等の事務手続き、礼状の作成等により社会的常識を学ぶ。
- (7) 下記の推薦に関する申し合わせにしたがい公正におこなう。

- ① 民間企業の場合 10 月 15 日以前は二つ以上の企業に同時に応募できない。10 月 16 日以降は二つまでの企業を同時に応募できる。
- ② 学校推薦により採用内定となった者は特別な理由がない限り辞退できない。
- ③ 同一企業への志望者が求人定数を超えた場合は、校内選考会で推薦者を決定する。
- ④ 縁故就職者も求人票を職安に提出していただき、所定の手続きをとる。

## IV. 学年別指導方針

### [1 学年]

- ① 高校生活への適応指導（個人面談など）・家庭学習の習慣を確立
- ② 学校生活全般を通して、自己認識を深めさせる。
- ③ 高大接続改革の趣旨および求められる力について周知する。
- ④ 社会や進路に関する一般的な知識を身につけさせる。
  - ・進路講演会、夏休み課題（職業研究レポート）、情報誌の配布
- ⑤ 教育課程の特色をよく理解させ、早めに各自の進路を考えさせる。（2 年次選択科目に関する HR など）
- ⑥ 進学・就職情報を提供するとともに、生徒に各々必要な情報を探らせる。
  - ・『看護体験』などへ積極的に参加させる。
  - ・情報誌の配布、インターネットの利用など。

### [2 学年]

- ① 進路の実現に向け、基礎的な知識・技能を習得し、思考力、判断力、表現力を伸ばす。
  - ・授業、朝ドリル、補習、外部模試
- ② 納得のいく進路選択をするために、視野を広げる。
  - ・進路学習、進路講演会、面談
- ③ 上級学校や学部・学科の研究を行い、志望校と志望学部・学科を決定する。
  - ・公開授業、オープンキャンパス、看護体験
- ④ 職業研究を行い、職種を決定する。
  - ・事業所見学

### [3 学年]

- ① 進学・就職情報を提供し、LHR を活用しながら生徒に各々必要な情報を探らせる。
  - ・情報誌の配布、インターネットの利用など。
- ② 就職・公務員・進学希望者に対する指導・援助を行う。
  - ・3 学年会と連携して、生徒一人一人に適した具体的進路指導案を考え指導する。
  - ・補習については、より効果が上がる方法を模索しながら計画的に指導していく。
  - ・面接・小論文・総合問題については3 学年会と連携して、計画的に指導をしていく。
  - ・就職試験・公務員試験・大学入学共通テスト・総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜の各々の選抜形態に対し、適宜指導し報告書を提出させる。
  - ・外部の進路研究会に参加して、その情報を共有し指導していく。
- ③ PTA 総会での講演会などを計画・実施して、生徒の進路実現に向けての環境整備をしていく。
  - ・保護者にも最後まで生徒を励ましがんばる覚悟を持ってもらう。
  - ・保護者の進学にかかわる費用や、奨学金システムなどの理解を深める。